



2008 年 10 月 8 日

各位

会 社 名 ミニストップ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 阿部 信行
 (コード番号 9946 東証第一部)
 問合せ先 専任取締役管理部長 井上 雅之
 (TEL 043-212-6472)
 当社の親会社 イオン株式会社
 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号8267 東証第一部)

業績予想との差異に関するお知らせ

2008年4月7日の決算発表時に公表した2009年2月期中間期(2008年3月1日～2008年8月31日)の業績予想について、下記のとおり差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。

1. 2009年2月期中間業績予想数値との差異(2008年3月1日～2008年8月31日)

(連結)

(単位:百万円)

	営業収入	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	63,000	4,300	4,700	1,700	58円78銭
今回実績(B)	64,068	4,643	5,099	2,432	84円13銭
増減額(B-A)	1,068	343	399	732	-
増減率(%)	1.7	8.0	8.5	43.1	-
(ご参考)前中間期実績	66,225	4,725	5,207	2,058	71円17銭

(個別)

	営業総収入	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	32,000	4,400	4,800	2,000	69円16銭
今回実績(B)	33,925	4,548	5,013	2,380	82円33銭
増減額(B-A)	1,925	148	213	380	-
増減率(%)	6.0	3.4	4.4	19.0	-
(ご参考)前中間期実績	31,813	4,763	5,257	2,378	82円24銭

2. 業績予想との差異の理由

(1) 中間期

ミニストップ株式会社の2009年2月期の中間期につきましては、連結純利益が前年同期比18.2%増の2,432百万円となりました。

国内コンビニエンス事業においては、第1四半期は4月および5月における週末の天候不順の影響を受けましたが、5月より導入されたたばこ自販機用成人識別カード「タスポ」による集客効果および7月の猛暑による集客効果により、第2四半期は好調に推移いたしました。

商品面では、店内加工ファストフード部門の主力商品であるコールドデザートの販売強化を図るため、

「パフェ」、「ハロハロ」等のテレビCMを積極的に投入いたしました。また、コンビニエンスストア部門においては、たばこをお買い上げになるお客さまに対応するため、各地区毎のタスポ導入に合わせ、「おにぎり 100 円セール」を実施する等、おにぎり・飲料・菓子などの関連購買商品の展開を強化いたしました。

以上の取り組みにより、当中間期における既存店 1 店 1 日当たりの客数は前年同期比 102.5%、平均日販は同 102.9%と大きく伸張いたしました。

これらの結果、ミニストップ株式会社の営業総収入は前回の予想に対して、1,925 百万円上回る 33,925 百万円（当初予想比 6.0%増）、営業利益は 148 百万円上回る 4,548 百万円（当初予想比 3.4%増）、経常利益は 213 百万円上回る 5,013 百万円（当初予想比 4.4%増）、中間純利益は 380 百万円上回る 2,380 百万円（当初予想比 19.0%増）となりました。

連結子会社であるエムエス九州株式会社は、加盟店を含む全店売上高が 101 億 74 百万円（前年同期比 118.3%）、経常利益は 1 億 36 百万円（同 164.2%）となりました。

また、連結子会社である韓国ミニストップ株式会社の業績も順調に推移し、ウォンベースでは、営業総収入は前年同期比 107.3%、経常利益は同 158.8%の伸びとなりました。

これらに加え、減損損失や閉店損失が大幅に減少したことおよび投資有価証券評価損が減少したことにより、当期純利益は前回発表の予想に対して、732 百万円上回る 2,432 百万円（当初予想比 43.1%増）となりました。

（２）通期

通期の業績予想につきましては、第 5 次店舗システム投資の前倒しおよび韓国のウォンレートの先行きが不透明であるため、計画数値を据え置いた内容とし、修正しておりません。

以上